

エッジAIカメラを活用した人流計測 デジタル技術を使って商店街の活性化を目指すプロジェクト

採択事業者名 プロジェクトi実行委員会
 コンソーシアム構成員 合同会社GTO / 今治商店街組合 / 有限会社i.h.s / 株式会社夢企工 / 株式会社PLAYCREW

事業概要

目的

エッジAIカメラを活用し、デモグラや時間帯などの人流データを取得。
 商店街の実情を見える化し、データを活用した活性化につなげる。また、集客イベントなど通してデータ取得及び商店街の地元住民の機運作りを実施。

課題

多くの要因が複雑に絡み合い、書店街の衰退につながっている。本プロジェクトはその中でも2つの課題に対し実施。

- ①人流データも曖昧で商店街の意思決定の基準がないこと。
- ②商店街のために改革する人に非協力的で水を差す状況。



解決策

- ①人流の見える化を行い、現状の状況と今後を考える土台作りを行う。
- ②イベントなど実施することで商店街に来る癖づけを行う。
集客イベントの数字を商店街内で共有することで理解を促進する。



取り組み内容

- ・現状把握と分析
AIカメラを活用し、商店街の人流を見える化
- ・賑わいづくり
集客イベントを通して様々な検証を実施。
イベントをすることで商店街の賑わいづくりを実施。
- ・地域住民との協力
商店街組合様と協力を行い、データをもとにイベント作りや今後の活性化に向け密に連携。
- ・他事業者との協力
近隣イベントなどとの協力により、データの取得や情報発信を実施。



検証項目

- ・地元住民の肌間での商店街の実情とデジタルを活用したデータのギャップの洗い出し。
- ・ターゲット別のコンテンツを実施することによる人流のコントロールの可否を検証
 - ①今治市を中心としたファミリー集客コンテンツ
 - ②今治市内外(県外含む)の若年層向け集客コンテンツ
 - ③夜の商店街へのアダルト層向け集客コンテンツ

取得データ

デモグラ、曜日、時間帯、エリア別傾向、イベント参加者へのアンケートなど定量・定性的データ取得

データ活用による考察・示唆

人流については想定2~3倍のギャップがあることがわかり、若年層がいなかったとされていたが、実際は20~30%程度若年層がいることが判明。エリアによって人流の傾向の違いも見え、商店街のベースデータの獲得に成功。イベントコンテンツも一定の成果が見え、結果的に地元住民による自発的情報発信も開始された。

成果と今後

成果(含む想定)

#最大100文字程度

		実装前	実装後(～今年度)	今後3年
定量面	金額	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 関連経済効果 平常時1日平均 ▶ 680万円 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ イベント集客(28日間)による関連経済効果 ▶ 1億3400万円 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ テナントの受け入れ体制整備 ▶ テナント受け入れができる店舗を5店舗増やす。
	重要指標	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 過去実施していたアナログな人流計測では通行量1日平均1300人程度 ▶ 約8割程度のお店がシャッター化 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 23年11月～2024年2月まで約3ヶ月半データ計測。 ▶ 人流データをもとに平常時の経済効果とイベント時の経済効果を計測。 ▶ →イベントによる追加集客が約9万人×平均消費金額1500円 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新規テナント誘客のため、貸出可能はテナントづくり ▶ まず、短期での貸出としてPOPUPストアなどの仮テナント施策を実施。まずは2~3テナント程度を想定。
定性面		<ul style="list-style-type: none"> ▶ 人流やデモグラなど個人の感覚による推測 ▶ 長年実施しているイベントを毎年繰り返すのみで新たな取り組みは少ない。 ▶ 新たな取り組みを始めようとしても非協力的で水を差す状況 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 無人でも24時間体制でのデータ取得が可能。 ▶ 地元有志による周遊型町の歴史展示イベントの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 現状、自宅兼店舗が多く、テナントとして貸出できる店舗が少ないため、別の補助事業等も活用しながら貸出可能な店舗づくりを進める。 ▶ 今期取得したデータを活用しながらターゲット選定を行いPOPUPストアの立ち上げを実施

次年度以降の実装計画/見立て

商店街の自走に向けた取り組み

シャッター商店街の解消に向けて、店舗の増加に向け、店舗の受け入れ態勢の整備。商店街のオーナーさんの理解を得ること、テナント改修に必要な費用補助のため、別補助金などの活用など視野に入れ活動。

活性化に向けたイベントの拡張・長期コンテンツ(POPUP)の立ち上げ

月2回実施している朝市イベントの拡大・継続可能なスキームづくり。感計画書との調整。
 データをもとにした、集客力の強いコンテンツ(POPUP)の実施。